

一 報告・平成26～平成28実施「子どもを褒めて育てる地域づくり推進事業」一

(平成29.7.22(土)金沢市歌劇座に於いて、報告発表)

西南部中学校子褒め委員会では、「子どもを褒めて育てる地域づくり推進事業」(H26～H28)一学び合い高め合う活動一 ①・② を行い終了しましたので、ご報告させていただきます。また、取り組みの中で資料とした文章③ はお読みいただき、子育ての参考にお役立ていただけましたら幸いです。

①「子どもを褒めて育てる」啓発活動として

H26 ・生徒アンケート実施(問い)「言われて嬉しい言葉は?」「褒められたい言葉は?」

H27 ・「褒める」という行為は、どのように捉えられているのか?をテーマに、それぞれ違う立場の参加者が話し合う機会とした。
〈参加者一小・中学生の保護者、小・中学校教員、地域〉(PTA四校連絡会に於いて)

H28 ・「自立を育む大切な言葉かけ」と題し、成長を意識し自立について考え話し合う、学び高め合いの場とした。
〈参加者一中学生の保護者、中学校教員、地域〉(家庭教育学級に於いて)



②「褒め言葉」校内掲示(保護者、職場体験事業所、職業人講師、ボランティア、地域の方々からのメッセージ)



掲示されているメッセージには、生徒への「理解、認め、称賛、感謝、お礼、自身の学びへの気づき、応援」の言葉が、贈られています

③参考文章

一語り合いのコツ一

1. 帰宅後すぐに一声かける
2. 子どもから話しかけられた時を見逃さない
3. 学校の行事予定を気にかける
4. 子どもの興味のあることに関心をもつ
5. 子どもの話を楽しみながら、最後まで口を挟まずに聞く
6. ゼロの気持ちで聞く(先入観を持たずに)
7. 親の気持ちを押し付けない
8. 親の中学時代の体験談を交えて話す

東海北陸7県PTA研究大会(H21)
西南部中PTA発表テーマ
「子どもの未来は語り合う家庭から」より

「褒めること」と「認めること」の違いは?

大人が子供を「褒める」ときは、一般に大人の基準や水準で「褒める」ことが多いように思われます。そして大人の側の基準で一定の水準に達した、水準を超えたと評価するのが「褒める」という行為と言えます。反対に言えば、水準に達しない場合には「頑張りなさい」と叱咤激励することはあっても、褒めることは稀(まれ)でしょう。

それに対して、子どもが「認めてもらいたい」ときというのは、一般に子どもの基準や水準で「褒められたい」のではないのでしょうか。子どもなりのこだわりで努力したり工夫したりしたことを「認められたい」のです。だから、大人の考えた基準に達していなくても「褒めてほしい」と考えたり、大人の考えた水準に到達して「褒められた」場合でさえ、大人の基準とは異なる子どもの基準で「褒めてほしい」と考えたりするわけです。

一文部科学省国立教育政策研究所調査研究報告書
生徒指導リーフ掲載より抜粋一

一 事業の取り組みにあたり、ご理解ご協力をいただいた皆様に、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。一
西南部中学校子褒め委員会